

## 第12回全国和牛能力共進会 in かごしま 2022 に出場しました！

令和4年10月6日から10日にかけて第12回全国和牛能力共進会が鹿児島県にて開催されました。

本共進会では全国41道府県から合計438頭の和牛が出場しており、栃木県では種牛の部で5頭、肉牛の部で2頭、高校生の部である特別区で1頭の合計8頭の和牛を出品しました。

県としては、本共進会に向け令和3年度から関係機関団体と一緒に、出品牛選考や飼養管理の巡回により支援をしてきました。

共進会の結果については、種牛の部で1等賞3席、肉牛の部で優等賞9席と上位に入賞するなど好成績を収めました。



大会当日の審査の様子

## 野生イノシシへの経口ワクチン散布対策を強化しています！

平成30年9月に、日本で26年ぶりに養豚農場で豚熱が発生し、その後、国内の野生イノシシにも豚熱感染が拡大しました。

感染の拡大を阻止するべく、国のワクチンベルト構想により、関東地方を中心とした東ベルトの一環として、本県では令和2年1月から地上散布を開始しています。

現在国内では、北海道と九州・沖縄地方を除く全域で経口ワクチンの散布を実施しており、県内においても全域に散布しております。

令和4年度から、国の方針変更に伴い、養豚場周囲への経口ワクチン散布を開始し、養豚農場の豚熱感染リスクの低減を図っています。



経口ワクチンを摂取する野生イノシシ

## 子実トウモロコシの生産、利用体系等の確立に向けた研修会を開催しました！

県では、下都賀地域子実トウモロコシ生産・利用研究会の協力の下、関東地域飼料増産行動会議、一般社団法人日本草地畜産種子協会との共催で、子実トウモロコシの生産、利用体系等の確立に向けた研修会を令和4年11月10日に開催しました。ほ場における子実トウモロコシの収穫実演に加え、専門家や生産者による講演、パネルディスカッションを実施するなど充実した内容で、県内外から集まった約150名の参加者は、それぞれ子実トウモロコシに対する知見を深めました。今後とも、子実トウモロコシをはじめとした自給飼料の増産を支援するなど、海外情勢に左右されない持続的な畜産経営の確立に向け、各種施策を推進してまいります。



子実トウモロコシの収穫実演